



小田原・平塚正教会だより

2016年9月号

2016年9月1日発行 第169号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-6514-3336

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

日本ハリストス正教会教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

本教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座: 00270-6-15226



きゆうせいしゅ しやうしんじょ きとう よ
「救世主よ、生神女の祈禱に因って、
われら すく たま
我等を救い給え。」

私たちが主である神に向かって言葉を発する方法は三つあります。一つは聖なる讃美の歌を歌うこと、二つめは祈禱文を読誦すること、そして三つめは「主、憐れめよ」「主、賜えよ」という言葉をもって、司祭による嘆願と祈願に応えることです。私たちが主ハリストスに話しかけたいと願うとき、聖歌はそんな私たちを大いに助けてくれます。心を一つにして歌いあげる聖歌ほど、私たちの霊を天の高みへと飛翔させ、この世の慮りを棄てて天使の如く生きることを助けてくれるものではありません。祈りの心をもって真に讃美の歌を歌う者は、己の霊を改め、自ら聖神の宮となるのです。



●五旬祭後第 11 主日聖体礼儀・月例パニヒダ

9月4日(日) 10:00～ (9:30 痛悔)

第2調 コリ前 9:2-12 マトフェイ 18:23-35

●五旬祭後第 13 主日 代式祈禱

9月18日(日) 10:00～

第4調 コリ前 16:13-24 マトフェイ 21:33-42

秋の修養会

9月18日(日)・19日(祝) 於: ゆうらいふ御殿場

※参加者は小田原教会でご祈禱後、出発。会場では13時から受付開始です。



聖体礼儀解説(12) ～心は最高の音楽家～

聖歌を歌う心が聖神の恵を得るためには、ただ楽譜どおり歌えば良いというものではありません。見えずして神を讃美する天使の軍勢と声を合わせなければならぬのです。聖体礼儀の作者である聖大ワシリイも聖金ロイオアンも、教会の聖歌について次のように述べています。『聖歌を歌う者が若年か熟年か、声質が良いか悪いか、音感があるかないかは全く問題ではありません。聖歌を歌う者に必要なのは、鋭敏な霊、覚醒した意識、敬虔な心、健全な思考、そして人としての常識です』。『預言者ダヴィドは、「主の諸義人よ、主に歌え」と高らかに歌いました。神に歌うことのできる者は、清浄な心で讃美の言葉を発することのできる者、神の誠めを守れる者です。聖歌を歌う者は、霊的な音の調べに然るべく従える者でなければなりません』。

私たちは絶え間なく神を讃美することができます。聖金ロイオアンは言います。『心は最高の音楽家、最高の演奏家です。そして、身体はまさに豎や琴の役割を担う楽器です。神はあなたが絶え間なく神を讃美し、神に歌を奉ることを望まれておられます。それならば、この楽器と演奏家である身体と心を途切れないように繋げるのです』。正教会の祈禱において楽器を使わないのは、信徒一人ひとりが神によって造られた楽器であり、演奏家だからです。もし演奏家(心)が楽器(身体)を適切な状態に保ち、正しく使用することができるならば、創造主に喜ばれる讃美の歌を奉ることができるはずです。敬虔な霊が生み出す聖なる歌を育むのは善なる心です。神はそのような歌を天上の祭壇で受けてくれます。

正教会の祈禱における聖歌は、通例「アンティフォン形式」で歌われます。アンティフォン形式と

は左右二つの聖歌隊が交替で歌うことです。この形式を最初に取り入れたのは、アンティオキアの聖イグナティイでした。

聖人は幻想の中で天使の軍勢が交替で至聖三者を讃美するのを見たのです。天使がそうであるように、人もまた神を讃美するために造られました。人は天使たちと声を合わせ交互に神に讃美の歌を捧げるために造られています。神学者聖グリゴリイによれば、「人は天使の代わるもう一つの声」です。一方で天使たちが、もう一方で人が、二つの聖歌隊のように絶え間なく創造主である神を讃美します。

聖体礼儀は、総括的に言えば、主ハリストスの生涯の再現です。したがって、各々の部分においてハリストスの生涯という時間的な期間の霊的再現が行われています。聖歌を構成する旧約の聖詠の引用句は、燈火が灯る以前の前駆イオアン以前の時代、この世がハリストスの臨在に気づくことのない時代を意味しています。つまり、預言者の言葉が重要性をもっていた時代です。しかし、預言されていたお方が現れた今、私たちは新たな歌を主に歌うのです。

聖体礼儀における聖詠の歌唱は霊的な準備であると聖ニコラス・カバシラスは言いました。まさに聖詠は前駆イオアンの業、私たちが主を迎えるために主の道を備えること一を為しているということです。私たちが聖体礼儀に参禱するとき、主が私たちの目の前に顕れます。ごらんなさい。神の子羊です。『来たりて主に歌い、神我が救いの固めに呼ばん』(聖詠94:1)。



最近の出来事・消息

小田原 顕栄祭（主の変容祭）聖体礼儀・月例パニヒダ・こどもイベント 8月21日(日)午前



こどもイベント 宝物あるかな～？



神父夫妻、マリアさんと記念写真

10時から行いました。顕栄祭は暦上8月19日ですが、日曜日に合わせて祝いました。この祭では果物を聖水で清め、神様の祝福を頂きます。最近では自分の菜園でとれた実り物も感謝の気持ちを込めて教会に持ってくる方も増えています。顕栄祭は30人超の参拝者で祝われ、昼食をとらずに帰る方にはその場で聖にされた梨やブドウをお持ち帰りいただきました。月例パニヒダの時間と並行して夏のこどもイベントが行われました。子供たちは水槽の中に入れられた砂と水の中に隠されたきれいな石を探すことに夢中になりました。自分でとった石を誇らしげに眺めている姿もありました。その後、顕栄祭についてのお話がクイズ形式でされ、保護者の方々も一緒に考えてくれました。この日神様の祝福を受けた実りのものは昼食でふるまわれ、皆で頂きました。また、青森から時間の許す限り小田原教会まで足を運んでご祈禱にいられていたマリア カポニ姉が9月末に研究を終えてギリシャ

に帰国されます。研究の成果が神様に祝福されギリシャでますます活躍されますことをお祈りします。

柏久保 晩課・信徒総会 8月13日(土)午後6時から、五旬祭後第8主日晚課を行いました。ご祈禱後は信徒総会を行いました。過年度の活動報告と会計報告がなされ、それぞれ承認、また新年度の活動計画案とその予算も承認されました。またご永眠されたダヴィド雨宮博兄を引き継ぎ、新執事長にタラシイ三田睦夫兄が選出されました。新役員にイリヤ真野均兄が加わりました。また7月末、暑い中ではありましたが、信徒の力で境内の雑草取りと草木の剪定が行われました。多くの方々のご尽力に心より感謝いたします。

物資の献品にご協力くださり、ありがとうございます

地域の中で物品を必要としている方々のために献品を募りましたところ、多くの方よりご協力を賜りました。物品は適宜振り分けて、その中でも数の多いものは一部海外で必要としている人々に送らせていただきました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

静岡 土地成聖式・建設業者契約締結式 7月30

日午前11時から行いました。強い日差しのもとでしたが、至聖所となる地点に仮設の祈禱台をつくり、建設に携わる関係者と共に土地の成聖、建設の安



全を祈りました。建設業を担当する久保田建設株式会社と契約を締結し、執事立ち合いのもと、建設予定地の再確認をしました。建設開始は8月1日、2月10日竣工を目指します。

修善寺 聖体礼儀・信徒総会 8月14日(日)10時から、五旬祭後第8主日聖体礼儀を行いました。こ

の日は東京復活大聖堂教会からアンフィ一サ奥村姉とエカテリナ阿部姉が来会され、修善寺教会に阿部姉が描かれた聖アンフィーサのイコンが献納されました。奥村姉はかつて修善寺教会近隣の病院で療養中ご祈禱に訪れ、その時の感謝をイコンとして献納したいとお話しされました。ご祈禱後は昼食をはさんで信徒総会が行われ



ました。過年度の活動報告と会計報告がなされ、それぞれ承認、また新年度の活動計画案とその予算も承認されました。

平塚 総パニヒダ 9月3日(土)午前10時より、渋谷 道子姉宅にて行われます。この日は、永眠されたご家族お一人お一人を記憶します。

献金報告

8/20 現在 日付は会計処理日です。ありがとうございました。

日付	氏名	摘要
7/31	荒井 譲兄	感謝献金
	オレニコフ ヴィクトル兄	感謝献金
8/20	日比野 俊二様	パニヒダ献金
	廣石 真太郎兄	パニヒダ献金
	神谷 綾子姉	パニヒダ献金

婦人会献金：

日付	氏名	摘要
8/20	神谷 綾子姉	パニヒダ献金



9月の永眠者一覧(敬省略)

永眠日	聖名	氏名	永眠年	縁故者
1日	ニフォント	神谷 孝一	1943年	神谷 忠明
1日	アンナ	川崎トシ子	2006年	川崎 晃
2日	ソフィヤ	阿久津 節子	1932年	阿久津 八重子
3日	ダリヤ	山本 ソメ	1966年	山本 やす江
4日	ペトル	日比野 徳蔵	1963年	日比野 正男
6日		中島 昇	1921年	中島 八千代
7日	アレキサンドル	百瀬	1984年	
7日	ウエラ	紺野 信	1974年	紺野 雅章
8日	ソフィヤ	日比野 トシ	1982年	日比野 馨
10日	ソフィヤ	澁谷 雪江	2014年	澁谷 道子
13日	ステファン	廣石 太一郎	1977年	廣石 和子
13日	リディヤ	石川 常子	2007年	石田 浩一
15日	パウエル	長澤 米次郎	1952年	
14日	シメオン	廣石 豊	2014年	廣石家
16日	ティモン	假野 貞文	1912年	假野 美枝
16日	ニキタ	青柳 寛	1985年	横田 祥子
16日	アキラ	神谷 忠	2014年	神谷 淳一
18日	ニコライ	神谷 忠三郎	1917年	神谷 淳一
20日	ワシリイ	荒井 友一	1995年	荒井 譲
22日		百瀬 ツル	1969年	百瀬 久
22日	アキリナ	石井 モト	1978年	石井 愛子
22日	マリナ	渡辺 房子	1888年	渡辺 宏
23日	マリヤ	廣石 ソノ	1948年	廣石 利恵
23日	マルファ	小島 満寿	1971年	山口 晃
24日	ニコライ	松下	1986年	中島 八千代
26日	ダヴィド	石川 亀雄	1929年	石田 浩一
27日	ソフィヤ	日比野 サダ	1905年	日比野 勇
27日		澁谷 芳雄	1922年	澁谷 道子
30日		窪田 一郎	1902年	窪田 幸夫
30日	コノン	竹内 義吉	1935年	樋口家
30日	シメオン	廣石 頼房	1977年	廣石 利恵

今月の月例パニヒダは第一日曜日です。

【2016年9月】小田原・平塚ハリストス正教会月間活動予定表

日	曜日	祈祷・行事・集会	堂役	主日調/聖書の読み
1	木			9/4
2	金			調:2調
3	土	平塚 地区集会(10:00)主日晚課・執事 定例 連絡会(17:00)		使徒経:コリ前9:2-12 福音経:マト18:23-35
4	日	五旬祭後第11主日聖体礼儀・月例パニヒダ(10:00)	神谷(幸)	●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう ●糖飯: 仮野 美枝姉
5	月	[修善寺墓地祈祷]		
6	火	[修善寺墓地祈祷]		9/11
7	水			調:第3調
8	木	[東京]		使徒経:コリ前15:1-11
9	金	[平塚]		
10	土	[柏久保巡回]		福音経:マト19:16-26
11	日	五旬祭後第12主日代式祈祷(10:00) [修善寺巡回]	山口(幸)	●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
12	月	[平塚(洗礼)]	モスクワの大公聖ダニイル祭	9/18
13	火			第4調
14	水			使徒経:コリ前16:13-24
15	木	[静岡墓地祈祷]		福音経:マト21:33-42
16	金	[静岡墓地祈祷]		
17	土	[午前・午後静岡巡回]		●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
18	日	五旬祭後第13主日代式祈祷(10:00) 秋の修養会(御殿場)	山口(幸)	
19	月	秋の修養会(御殿場)	敬老の日	9/25
20	火			第5調
21	水		生神女誕生祭(十二大祭)	使徒経:コリ後1:21-2:4
22	木	[修善寺墓地祈祷]	秋分の日	
23	金			福音経:マト22:1-14
24	土	[午前 東京・午後静岡巡回]		●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
25	日	五旬祭後第14主日代式祈祷(10:00) [静岡巡回]	神谷(幸)	
26	月	[東京(理事会)]	十字架挙栄祭(十二大祭)	
27	火			
28	水			
29	木	[東京]		
30	金			

[]内は司祭の活動

* 聖体礼儀に参拝し領聖するときは、前日から十分に節制しましょう*

* ここには主日の聖書の読みが記載されています。お手持ちの聖書を読むときに活用して下さい。*

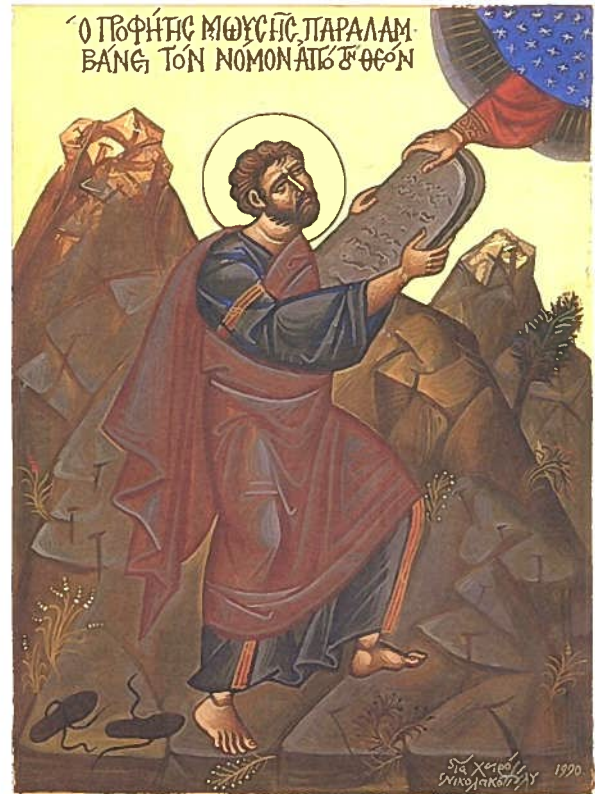
聖預言者モイセイ

記憶日9月17日/9月4日(新曆)

モーセの名で一般的に知られている聖預言者モイセイはレビの部族、アブラハムの子孫である。彼の生涯については旧約聖書の出エジプト記から申命記に記されている。モイセイは紀元前 1689 年ごろエジプトに生まれた。この頃、エジプトの王ファラオはヘブライ人を奴隷としていたが、彼らが増えすぎたことから、生まれたヘブライ人の赤子が男子である場合は殺害するよう命令を下していた。モイセイの母親は生まれた子が男子であったため、パピルスで編んだ籠に入れてナイル川に流した。それを川岸に来たファラオの娘が拾い上げ、エジプトの王族である自分の息子として育て上げた。

モイセイが 40 歳の時だった。彼が街の様子を見に行くとエジプト人がヘブライ人に暴行しているのを見て、思わずそのエジプト人を殺害してしまった。それがファラオの耳に届いたので、彼はアラビア半島の西岸にあるミディアムというところに逃れた。そこで彼は羊飼いの一族と出会い、その中の娘と結婚して 40 年間暮らした。80 歳のある日、彼がホレブ山へ登ると、燃える芝を目にする。そこで突如神の声を聴く。彼はその声に向かって名前を尋ねると、神は自分を「在って在る者。(I am the Being.)」と名乗った。そして神はモイセイに、エジプトで奴隷となっているヘブライ人を開放して彼らの約束の土地イスラエルへ帰還させよと命じた。

モイセイは家族を残してエジプトへ帰った。そこでファラオと幾度も奴隷解放の交渉を重ねるが、ファラオはますます心を頑なにする。その度に神が奇跡的な災いをエジプトに起こした。ついにファラオはモイセイの要請に応じてヘブライ人を奴隷から解放した。モイセイはヘブライ人の大群を率いてエジプトから脱出するが、ファラオは彼らを背後から追撃してエジプトを出る前に全滅させようと軍勢を送った。いよいよエジプトを出るヘブライ人の目の前には海、紅海が広がっていた。エジプト軍が近づいてくるのを見て怯えたヘブライ人たちは、モイセイに「こんなことになるのならエジプトに残って奴隷生



十の戒めを記した 2 枚の石板を受け取る聖預言者モイセイ

活を送っていた方がマシだった」と文句を言う。モイセイは両手を挙げて神に祈り続けた。両側では共にレビ族であるアアロンとヨシュアがその腕を支え続けた。その時、海が彼らの前で右と左に分かれて海底がむき出しになった。ヘブライ人たちは「神を歌いて讃め揚げよ」と讃美しながらその海を渡ったという。後に続こうとしたエジプト軍は海を渡ることができなかった。その後 40 年の間、ヘブライ人は彼らの故郷、約束の土地を目指して荒野を旅する。その間何度も危機に遭い、その度にヘブライ人は文句を言うが、神はモイセイを通じて忍耐強く彼らを導き続けた。

紀元前 1569 年、モイセイは 120 歳になった。長い旅の果て、約束の土地を目の前にして彼は永眠した。これは神が予めモイセイに伝えていたことであった。

現在でもユダヤ教では、神が導いた荒野の旅を三大祭の一つである仮庵祭で記憶している。主イイススハリストスは、この仮庵祭の時期に自らがその神であることを人々に顕した。このことを正教会では 8 月 19 日に顕栄祭と称して祝っている。

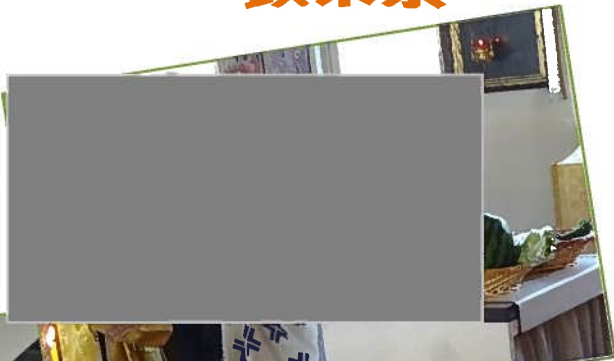
トロバリ(第二調)：預言者モイセイよ、爾は高德に至り、故に神の光栄を見るに価うる者と顕れたり。

慈しみ溢るる戒めの石板を領け、自ら刻む恩寵を給いに、爾を大いなる神秘の見神者、預言者と讃栄せん。

※トロバリはギリシア語からの翻訳です。

フォトレポート 顕栄祭

→婦人会での用意と、皆で持ち寄った実りの物が神様に祝福されました。



↑夏のこどもイベント、宝探し大会！屋外が高温のため、室内で活動しました。水槽の中の砂に埋まった宝物をみんな手探りで見つけました。その後、顕栄祭クイズをしてお祭りの学びをしました。見つけたきれいな色の石は後でアクセサリーにしました。

→青森県の弘前大学の大学院でリンゴの研究をしてきたマリア・カポニ姉が九月末、ギリシャに帰国されることが報告されました。そこで、屋食に残っている兄弟姉妹で記念撮影をしました。



洗礼おめでとう！

パンテレイモン小口 惺慈君 (0歳)

2016年8月18日

セルギイ小口真一兄・シーラ香月姉ご夫妻の次男です。代父母はマカリイ山口幸夫副輔祭とアナスタシア田中祐子姉。幾年も、幾年も、幾年も！

